



断水（給水・トイレ）体験を行いました

5月23日（木）に、断水体験を行いました。災害時に上下水道が止まったという想定で体験を行いました。津島市の備蓄品である非常用トイレを設置し、新聞紙と凝固剤を入れ、水を流し、固めました。トイレに入れた水は、こちらも津島市の備蓄品である非常用給水袋を使い、水道から汲みました。

先日の講演会で一番困ったことはトイレだったと話されていました。災害時に下水が逆流し、トイレが使える状態ではなくなるという話も聞いたことがあります。トイレが汚い、臭い、怖い、使い勝手が悪いとなると水分摂取や食事を控え、それが原因で体調を崩したり、エコノミッククラス症候群を発症したりする。そして最悪の場合、死に至ることもあるそうです。トイレは健康にとっても大切な物です。今日、「もしも」の時の備えと対処法を知り、体験できたことは今後につながると思います。



生徒の振り返り

- ・非常用給水袋の水がもれなかったことがすごかったし、最大で6Lの水が入ることがびっくりした。簡易テントのおかげでプライベートが確保されることに安心した。
- ・結構な量の水をトイレに入れても、新聞紙と凝固剤だけで水が固まっていてびっくりした。新聞紙の丸め方によって、水の吸水力が変わってくるのが分かった。
- ・こんな風にトイレをするのはできるだけ嫌だから、普通にトイレができることは幸せなことだと思った。組み立てが簡単ですぐにでき、改めて協力することが大切だと思った。
- ・段ボールを使ってトイレを作ることもできるので、災害時に備えて、そういう場合どうすればよいかをすぐに考え、行動できるようにしていきたい。
- ・段ボールトイレの中身が凝固剤で固まるのが、意外に速くてびっくりした。また、水を吸収していたので、持ってみたら重かった。
- ・非常用給水袋は6Lの水がきれいに保たれていると考えると安心だなと思った。人間は水がないと生きていけないので、第一に水の確保が必要だと思った。